

【取手市】 校務DX計画

【現状】

取手市では、GIGA第1期において、クラウドツールの活用について、一定の成果を上げてきた。具体的には、児童生徒の欠席・遅刻等に関する保護者のやりとりにアプリツールを活用したり、学校からのお便り等についてもアプリツールを活用したりしている。令和6年度からは、複数のアプリツールを一元化したことにより、更なる効率化が図られている。また、近年ペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきている。

一方、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、一部の業者とのFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。

教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっている。また、責任者による押印等が必要であり、“押印待ち”といった無駄な時間が発生し、押印待ちによる残業等も発生している状況である。

(2) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

取手市では、生徒の欠席・遅刻等に関してアプリツールを活用し行っているが、教職員が別途校務システムへ入力し、管理者へ報告をしている状況であり、教職員の負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から取手市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(2) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

今後の当市システム更新を実施する際、校務系と学習系のネットワークを統合し教職員の端末を1台にすることで、ファイル無害化転送システムを使用したデータ移行などの業務負担を軽減する。

生成AIの校務での有効活用に向け、国のガイドラインに基づいた活用を推進し、県域外の好事例等の情報収集や講師を招いた研修を教職員向けに実施する。